第10章　ま　と　め

第１節　調査の成果

中尾第１遺跡の発掘調査は一般国道９号（東伯・中山道路）の改築工事に伴い、平成15年度に実施したものである。調査の結果、縄文時代から近世にいたるまでの遺構・遺物を確認した。以下、本文の内容と記載が重複する部分もあるが、調査成果について時代順にまとめることとする。

縄文時代については、落し穴と土坑を確認している。落し穴はＡ１区とＣ区で43基確認されているが、このうち４基で晩期の遺物が出土しているに過ぎず、時期の特定が困難なものが多い。しかし、周囲の遺物出土状況、埋土の状況から縄文時代に属する可能性が高いと考えられる。形状は円形、隅丸方形、隅丸長方形、楕円形と様々である。また、落し穴はＡ１区とＣ区のみで確認されていることから、立地選択が行われた可能性が考えられる。

土坑はＣ２区で土坑35が確認されている。土坑35はＣ２区の南側で確認されており、晩期の精製土器や突帯文土器、石器が出土している。また、この周辺では晩期の刻目突帯文土器や石器が出土しており、ここが集落の縁辺部にあたる可能性が考えられ、調査区外において集落が形成されていたものと考えられる。

弥生時代については、前期と中期の遺構・遺物を確認している。前期の遺構は、縄文時代晩期に引き続きＣ２区南側で土坑と土坑墓群を確認している。土坑墓群は11基確認されており、このうち９基は墓壙に石を配した礫石使用墓であった。礫石使用墓には（１）墓壙の上面に石を配したもの（土坑墓５・６）、（２）墓壙の側面に石を配したもの（土坑墓１・７・８）、（３）墓壙の内部を石で囲むもの（土坑墓３）、（４）墓壙の隅に石を配したもの（土坑墓２・５・６）がある。このうち（１）は（４）と組み合わされている。また（４）については墓壙の上部に石を配しているものが認められることから、外部標識としていた可能性も考えられる。

墓群形態については、調査範囲が限られているために全体像を捉えることができず判然としないが、墓壙の主軸方向がほぼ東西方向を向いており、弥生的墓制である列状墓群形態を呈しているようにみえる。しかし、土坑墓９・10の主軸方向が他のものと異なり、縄文的墓制である環状墓群形態を呈しているようにもみえる。また、先述したがここは縄文時代晩期の遺構・遺物を検出した場所であり、さらに、土坑墓の周辺からは口縁部の下方に無刻目突帯文がつく弥生土器が出土していることから、被葬者は縄文時代の要素を残した集団であったことが想定される。このことから、列状墓群形態と環状墓群形態が融合した墓群形態である可能性が考えられる(1)。このような墓群形態を呈するものに鳥取県下では倉吉市イキス遺跡があり、当地域における前期の墓制を考える上で注目される。

中期については、それまで遺構・遺物の集中していたＣ区ではわずかに土器片が出土しているに過ぎず、それまで遺構・遺物の希薄であったＡ１区に集中しており、集団が移動したものと考えられる。時期は中期前葉から中葉にかけてであり、それ以降の遺構・遺物は遺跡全体から確認されておらず、他の地域へ移動したものといえる。

確認された遺構は、竪穴住居、貯蔵穴、土坑である。このうち、竪穴住居は２棟が重複したものである。内側の竪穴住居１ａは復元径6.5mを測る住居であり、柱穴Ｐ１では柱抜き取り後15cmほどの礫が埋め込まれていた。また、竪穴住居１ｂは復元径10mを測る大型の住居であり、柱穴Ｐ13では柱抜

き取り後、完形の壺を埋納していた。このように、竪穴住居１ａ・１ｂにおいて柱抜き取り後モノを埋める行為が共通して認められており、注目される。

貯蔵穴１・２では炭化米がわずかながら出土している。また、貯蔵穴１では炭化米とともに打製石鍬が出土しており、ここで耕作が行われていたことが想定される。しかし、今回の調査では各調査区を通じて生産に関する遺構を確認することができず、生産地が何処であったのか不明であるが、調査区外に存在する可能性が十分に考えられ、今後の調査において留意すべき点といえる。

古墳時代については、中期の遺構・遺物がＣ区で確認されている。遺構・遺物の時期はおもに中期中葉であり、それ以外の時期に相当する時期の遺構・遺物を確認することができず、この一時期において集落が形成されたものと考えられる。確認された遺構は、竪穴住居、土坑、溝である。竪穴住居は、先述した土坑墓群の位置するＣ２区の南側に位置しており、ここから南西方向へ向かって緩やかに標高が高くなっていくことから、調査区外において集落の存在が予想される。

中世については、各調査区を通じて遺構・遺物が確認されている。時期は11世紀から15世紀にいたるものであり、このうち、中心となる時期は13世紀から14世紀にかけてと考えられる。確認された遺構は、掘立柱建物、段状遺構、土坑、火葬墓、区画溝、溝である。これらはＡ２区とＢ１区に集中しており、この周辺において集落が形成されていたものと想定される。確認された掘立柱建物の主軸方向は平行ないしは直交しており、また、他の遺構についても同様の配置となっており注目される。このような配置は条里地割に即したものと指摘できるが、当遺跡の周囲には条理地割が確認されておらず、推測の域をでない。

さて、中世の遺構として特筆されるものに区画溝と火葬墓がある。区画溝はＡ２区で３条確認され、時期は14世紀の範疇に入るものと想定している。これらは調査区外へ延びたり後世の削平などによって消失したりしていることから全体の状況を知ることはできないが、すべて同様の形状・規模を呈するものと考えられる。また、区画内の状況は、区画溝１・２においては柱穴を確認するものの掘立柱建物としてまとまるものがなく、これに対して、区画溝３では主屋と考えられる掘立柱建物１、その付属施設と考えられる掘立柱建物２・３を囲繞しており、これらの区画溝はそれぞれ性格の異なった空間を囲繞していた可能性が考えられ、当時の集落の様相を知る上で注目される。

火葬墓であるがＡ１区で火葬墓１、Ｂ１区で火葬墓２が確認されている。火葬墓１は単独で存在しており、時期は13世紀から14世紀と考えられるものである。器面に格子タタキが施された須恵器甕を蔵骨器としており、この甕は胎土分析によって勝間田産であることが判明している（第９章）。火葬墓２も単独で存在するものであり、時期は放射性炭素年代測定によると15世紀という結果が得られている（第９章）。底面には扁平な石が敷かれており、そこには脂が付着し、周囲からは炭・骨片・土器片が認められたことから、ここで荼毘に付した後、埋葬が行われたものと考えられる。

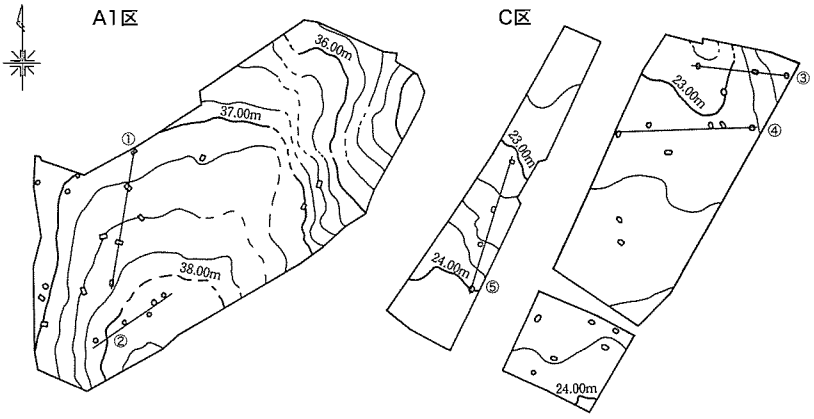
近世の遺構・遺物については、特筆すべきものがなく、時期の特定できない溝や柱穴、包含層中や撹乱溝から18世紀から19世紀にかけての陶磁器や木製品などが出土しているに過ぎない。　　（玉木）

参考文献
（１）小林青樹　2000「中四国における初期弥生墓制の変容―礫石使用墓と列状墓群の動向を中心に―」『古代吉備』第22集
（２）倉吉市教育委員会　1989『北面遺跡群　イキス遺跡発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告56集

第２節　縄文時代の遺構・遺物

はじめに

調査の結果、縄文時代の落し穴をＡ１区で21基、Ｃ１区で18基、Ｃ２区で４基検出した。出土遺物は皆無に等しく、時期決定が困難であったが、Ｃ１区の３基から縄文時代晩期末の粗製土器片が出土しており、遺物出土状況から遅くともこの時期には埋没したと考えられる。また、他の土坑も形態・埋土がそれらに類似することから、縄文時代晩期の落し穴の可能性が高いと考えられる。



第167図　落し穴分布図

出土遺物は包含層出土ながら縄文時代中期から晩期末のものが出土したが、その多くは晩期末の突帯文土器で、調整方法は内外面ともナデあるいはケズリが主体で、ハケメのものはみられない。

本節では落し穴を形態ごとに分類し、若干の考察を加える。次に、本県において資料に乏しい突帯文土器について口縁部形態の傾向を述べ、資料の増加に寄与したいと思う。

落し穴

（１）形態

平面形態、断面形態、底面施設をそれぞれ分類する。分類方法は、検出面での形態および断面形態を基準に行うが、平面形態・断面形態・土層観察により本来の形態が推定できるものは、推定形態で分類する。

平面形態は検出面での平面形態を基準に３類に分類された。１類は隅丸長方形、２類が隅丸方形、３類は円・楕円形である。１・３類ともＡ１区、Ｃ区において10基前後検出されているのに対し、２類は両地区においてそれぞれ５基未満と少ない。断面形態は３類に分類した。Ａ類は壁面がほぼ垂直に立ち上がるもの。Ｂ類は壁面が外傾し立ち上がるもの。Ｃ類は壁面が内傾し立ち上がるものである。落し穴の多くはＡ類に属し、Ｃ類は４基しかみられない。底面施設はピットをもつもの、もたないものに大別される。ピットをもつものは23基で１・２類のものに多く、３類にはわずかにみられるだけである。また、ピットをもつもの、もたないものともＡ１区、Ｃ区全体に分布するが、Ｃ１区北側においてはピットをもたないものが集中して分布する。

（２）配列

規則性のある配列はＡ１区で２箇所、Ｃ区にて３箇所確認された。Ａ１区の配列①は南から北にかけて、落し穴４・５・10・12により構成される。これらは１・２類に属し、すべて底面にピットをもつ。遺構間は10～15mで、主軸が等高線に対し斜交もしくは平行に配置される。配列②は北東から南西にかけて、落し穴７・８・９・13・17により構成される。いずれも３類に属する。遺構間は４～９mで落し穴７・８・９は近接する。配列③は東から西にかけて配置され、遺構間隔は９mと11mであ

る。配列④は東から西にかけて、落し穴27・28・30・31で構成され、主軸が等高線に対し直交するように配置される。配列⑤は南から北にかけて10～12mで配置される。

（3）小結

Ａ１区、Ｃ区において縄文時代晩期の落し穴を43基確認した。これらは上述したように、隅丸長方形・楕円形のものが主体をなし、楕円形の多くは底面ピットをもたない。また、時期は各遺構の埋土に違いがみられないこと、重複関係にある遺構が存在しないこと、出土遺物に時期差がみられないことから、いずれも縄文時代晩期に属する可能性が高い。

これらを踏まえて県内の遺跡をみると、前期の落し穴がある程度まとまって検出された倉吉市中尾遺跡においても隅丸長方形、隅丸方形、楕円形の形態があり、本遺跡とほぼ同様の様相を示す。このことから、形態差が時期的変化に起因するとはいえず、縄文時代前期から晩期にかけて、いくらかの形態バリエーションが断続的に存在したと考えられる。

また、落し穴はＡ１区とＣ区のみにみられ、両地区に挟まれたＡ２区、Ｂ区においては、検出されていない。Ａ１区丘陵西側斜面とＡ２区、Ｂ区丘陵東側斜面を比較すると、東側斜面の傾斜が若干きついが、狩猟を行うことが可能な自然地形と思われる。このことから当遺跡においては、自然地形以外の条件も含め狩猟場の選地をしていたと考えられる。

突帯文土器

当遺跡における突帯文土器の口縁部形態の傾向を述べる。なお、今回はあくまで口縁部形態を分類するため、胴部に突帯文がめぐらされるものは取り扱わないこととする。

口縁部形態のわかるものは35点あり、いずれも器形は深鉢が想定され、口縁端部に刻目は施文されない。これらは35点中26点が刻目突帯文で、９点が無刻目突帯文である。口縁部立ち上がりは直立気味に立ち上がるもの、緩やかに外反して立ち上がるものがある。突帯部は口縁端部下方に付されるものと、口縁端部より付されるものがあり、口縁端部下方に付されるものは、刻目突帯文で18点、無刻目突帯文で６点みられ、口縁端部下方から突帯文が付されるものが多い。刻目形態は、深く刻まれたＶ字状のものが多く21点、Ｄ字状のものは４点、Ｏ字状のものは１点のみ出土している。これらのうち、口縁端部から刻目突帯文が付されるものはＶ字状のもので５点、Ｄ字状のもので２点、Ｏ字状のものは１点で、口縁端部下方から突帯文が付されるものが多い。以上を整理すると、刻目突帯文土器では口縁端部下方にＶ字状の刻目突帯文を付したものが、無刻目突帯文では口縁端部下方に突帯をめぐらすものが主体をなすことになる。

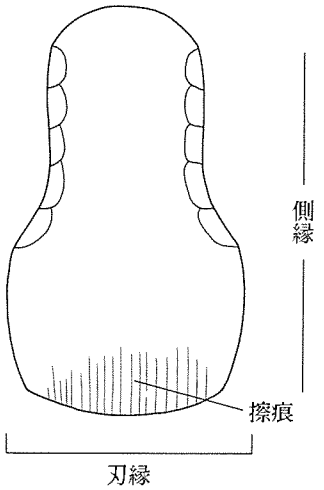
当遺跡出土遺物を、濱田竜彦による本県突帯文土器の型式学的分類にあてはめると、突帯文Ⅲ期から弥生時代前期の範疇に収まると考えられるが、刻目突帯文にハケメがみられないこと、無刻目突帯文の組成比率が低いことから突帯文Ⅲ期の要素を多く含んでいるといえる。

今後の課題としては、突帯文土器の形式学的変遷と時間的変遷の確立、それに基づいた当該期の地域・社会性の解明が挙げられるが、一括性のある良好な資料に乏しい本県の現状では不明な点が多く困難であるため、資料の増加を待ち改めて検討することとしたい。　（福井）

参考文献
（1）青森県教育委員会　2001『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』
（2）霧ヶ丘調査団　1973『霧ヶ丘』
（3）倉吉市教育委員会　1991『中尾遺跡発掘調査報告書』
（4）財団法人米子市教育委員会　2001『目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ』

第３節　中尾第１遺跡出土石鏃について

中尾第１遺跡において、石鏃は各調査区を通じて14点と比較的まとまった量が出土しており、これらを観察することによって、何らかの特徴および傾向を知ることができるのではないかと考えられる。そこで本節は、本遺跡出土石鏃の特徴について述べ、まとめていくこととする。なお、特徴を述べるにあたって、石鏃の部位名称は第168図に示したものを使用し、裏面は平坦面が多く認められる面、表面はその逆面とする。



第168図　石鏃部位名称

（１）出土数と時期

石鏃は、図化できなかったものを含めて14点出土した。地区別に概観すると、Ａ区では１点出土しＡ区出土石器の10％となっている。また、Ｃ区からは13点出土しＣ区出土石器の44％を占める。周囲の状況から、時期はＡ区が弥生時代中期、Ｃ区は縄文時代晩期と考えられる。

（２）形状

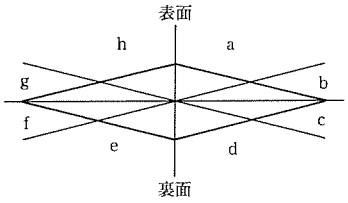
形状を観察すると、Ｃ区出土のものについては、形態分類の短冊形・撥形・有肩形に属すものが多く、Ａ区出土のＳ９（第14図）については、いずれの分類にも属さない楕円状を呈している。これが弥生時代中期のものであるということもあって、時代差をあらわしている可能性が考えられる。また、基部の形状により分類すると、抉りをもつもの50％、抉りをもたないもの43％、形状不明７％となっていた。

（３）擦痕

刃部４点に擦痕が確認されている。これらは、器体の長軸方向に対して平行にのびており、刃縁に対してやや斜行するものと、直交するものの２種類に分けられる。擦痕がおよぶ範囲は、両面に見られるものと裏面のみの２種類があるが、両面に見られるものであっても、裏面の方が広い範囲に及んでいる。このことから、裏面と対象物が接した範囲に擦痕が生じやすいという傾向が明らかとなった。なお、基部には、柄の装着痕と考えられる明瞭な擦痕は認められなかった。

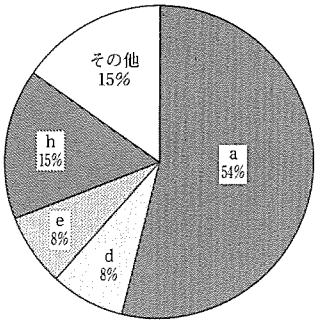
（４）折損

本遺跡出土の石鏃は80％が折損資料である。石器の折損原因には石質、器体の厚さが挙げられるが、本資料は折損面に節理等は見られず、厚さによる折れ方の違いが認められない。このため、単に強い



折れ方向分類模式図

1．折れ面が一資料に複数ある場合は面数で計測した。
2．分析対象には未掲載資料も含まれる。



第169図　折損石鏃における折れの推定方向と傾向

表３　折損石鏃における折れの方向と面数

折れ方向	計測数
a	7
b	0
c	0
d	1
e	1
f	0
g	0
h	2
その他	2
計	13

力を受けた部分で折れたものである可能性が高い。したがって、折損面を観察することにより、石鏃が受けた力の向きを明らかにすることができ、折損原因の傾向が判明するものと考えられる。

折損面の観察は、打製石器の剥離方向を判断するのと同じ方法で行った。折損資料の75％が長軸に対して直交して折れていたことから、この面をa～hに８区分し、器体が力を受けた向きの傾向を示した。器体を２つに縦割りするように、長軸方向で折損しているものについては、「その他」と分類した。

この結果、折損方向別の割合はa・hが約70％、d・eが16％、残りは「その他」となり、本遺跡の石鏃は、表面に受けた力によって折損したものが多いということが明らかとなった（第169図）。先述したが、擦痕の生じやすい面は裏面であることが判明しており、石鏃に対する力の加わり方が擦痕と折損では異なるものであった可能性が考えられる。

（５）製作

本遺跡出土の石鏃は、形状・時期に関わらず、以下の3つの段階を踏んで製作されたと考えられる。

第一段階　素材の作出を行う。原礫からそのまま製品をつくるものと、剥片を作出した後に整形するものに分類できる。素材を作り出す際の打撃は、長軸に対して縦・横方向の両例が見られるが、両面で打撃方向が異なるものも認められる。

第二段階　基端部・刃縁部の整形加工を行う。階段状の調整によって厚みを薄くしている。この段階において、鋭利な刃部が作り出されている。

第三段階　側縁部の整形加工を行う。まず、緩斜度からの打撃を加えて素材の１/４～１/８の範囲を剥離させ、次に、急斜度からの打撃を加え素材の１/８未満の範囲を剥離させていると考えられる。急斜度からの調整は基部の縁辺に集中し、剥離が重なって潰れたような状態になっているため、刃潰しの機能も兼ねた調整であったと考えられる。また、調整は一定の範囲で平行して施されているが、交互に面を入れ替えて加工するものではないと考える。

ところで、これらの石鏃の石材は全て板状安山岩であり、自然面の平坦な部分を使用して作られているものが50％を占めている。打製石斧では、川原石の平坦な部分の剥片を素材に使用しているものを反りの少ない打製石斧とし、反りをもっているものと区別されているが、本遺跡の石鏃は、自然面の有無にかかわらず平坦面をもつものが認められることから、反りが少ないというよりも、平坦な面を意識して整形されていたと考えられる。

（６）まとめ

以上、中尾第１遺跡の石鏃について述べてきた。形状では抉りをもつもの、もたないものの２種類に大別された。これらは同じ製作工程を踏んで製作されたと考えられる。また、擦痕の生じやすい面が裏面であるのに対し、折損時に力を受けた面は表面であったことから、石鏃に対する力の加わりかたが擦痕と折損では異なるものであった可能性が考えられる。これらの特徴が本遺跡の石鏃だけに認められるものであるのか、今後検証していきたい。　（長尾）

参考文献
（１）平井勝　1991『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64　ニュー・サイエンス社
（２）黒尾和久・宮里学　1993『はらやま』下巻　調布市原山遺跡調査会
（３）小田静夫　1976「縄文中期の打製石斧」『どるめん』10号　ＪＩＣＣ出版局

遺物観察表

凡例　（　）内の数値は復元値・残存値を示す。
調整は上から下へ順に示している。矢印は調整の順序を示している。
突帯文の分類は濱田竜彦　2000「因幡・伯耆地域の突帯文土器と遠賀川土器」『突帯文と遠賀川』による。

土器①

掲載番号	地区	遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調	備考
1	A1	住居1	弥生	壺	13.1	22.5	6.2	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ハケメ→ミガキ	密	良	外-にぶい黄橙、内-浅黄	
2	A1	住居1	弥生	壺	—	(7.1)	—	ハケメ→ミガキ	ナデ	密	良	外-灰黄褐、内-にぶい黄橙	刺突文
3	A1	住居1	弥生	壺	—	(11.0)	—	ハケメ→ミガキ	ミガキ	密	良	外-暗灰黄、内-灰、断-灰黄褐	刺突文
4	A1	住居1	弥生	壺	—	(8.9)	(8.0)	ミガキ	ミガキ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
5	A1	住居1	弥生	甕	—	(6.0)	(6.6)	ハケメ→ミガキ→ナデ	ナデ	密	良	外・断-浅黄橙、内-灰黄褐	
6	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	19.2	(11.1)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ナデ	密	良	外・内・断-灰黄褐	刺突文
7	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(20.0)	(6.4)	—	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ミガキ	密	良	外・内・断 - 黒褐	
8	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(15.4)	(6.8)	—	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ハケメ	密	良	外・内・断-褐灰	刺突文
9	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(9.3)	(5.6)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	緻密	良	外・内・断 - にぶい黄橙	
10	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(10.2)	6.2	ミガキ	ハケメ→ナデ	緻密	良	外・断-灰黄褐、内-黒褐	
11	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(8.8)	7.0	ミガキ→ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、内・断-黒	
12	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(4.0)	(5.8)	ミガキ	ナデ	密	良	外・断-灰黄褐、内-黒	
13	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	18.0	29.0	16.8	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	赤彩
14	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(17.0)	(9.4)	—	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ハケメ	緻密	良	外・内・断-にぶい黄橙	刺突文
15	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(17.4)	(1.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断面-黄灰	赤彩
16	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(17.0)	(4.7)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ→ナデ	密	良	外-浅黄橙、内-にぶい黄褐	
17	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(20.0)	(5.3)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	緻密	良	外 - 灰黄、内 - 黒	
18	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(16.0)	(6.3)	—	ミガキ、ナデ、ハケメ	ナデ	緻密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
19	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(6.3)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	緻密	良	外・内・断-にぶい黄橙	刺突文
20	A1	貯蔵穴1	弥生	壺	—	(7.0)	(12.4)	ミガキ	器面剥離し調整不明	密	良	外-黒褐、内・断-にぶい黄橙	
21	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(5.8)	(6.0)	ミガキ	ミガキ	密	良	外・断-褐灰、内-黒	
22	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(3.8)	5.8	ミガキ、ナデ	ナデ	密	良	外・断-にぶい黄褐、内-黒	
23	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	(12.2)	(5.9)	—	ミガキ、ハケメ→ミガキ	ミガキ、ハケメ→ミガキ	密	良	外・内・断-黒	焼成前穿孔
24	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(4.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、内・断-灰黄褐	
25	A1	貯蔵穴1	弥生	甕	—	(1.2)	(6.1)	ナデ	ナデ	緻密	良	外 - 暗灰黄、内・断 - 灰黄褐	赤彩
26	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	(24.6)	(9.4)	—	ナデ、ハケメ	ハケメ→ナデ	粗	良	外・内・断-にぶい黄橙	貼付突帯、斜格子文
27	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	—	(7.4)	—	ハケメ	ナデ、ハケメ	密	良	外・内・断-灰黄褐	貼付突帯
28	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	—	(15.0)	—	ハケメ→ナデ、ミガキ	ハケメ	密	良	外-橙、内・断-明褐灰	刺突文
29	A1	貯蔵穴2	弥生	甕	(17.6)	(10.6)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、指押え、ハケメ	密	良	外・内・断-にぶい黄褐	
30	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	—	(9.5)	—	ハケメ	器面剥離し調整不明	緻密	良	外-橙、内・断-黄橙	櫛描羽状文
31	A1	貯蔵穴2	弥生	高坏	—	(7.4)	(14.0)	ハケメ→ミガキ	器面剥離し調整不明	粗	良	外・内-灰黄褐	
32	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	—	(3.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-浅黄橙、内・断-にぶい黄橙	沈線文
33	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	(27.4)	(1.5)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外・内 - 灰黄褐、断 - 灰白	斜格子文
34	A1	貯蔵穴2	弥生	壺	—	(8.1)	—	ハケメ	器面剥離し調整不明	粗	良	外-灰黄褐、内・断-灰白	貼付突帯
35	A1	貯蔵穴2	弥生	甕	—	(9.1)	—	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ハケメ→ナデ	緻密	良	外・断-にぶい橙、内-にぶい黄橙	
36	A1	貯蔵穴2	弥生	甕	(20.0)	(6.4)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ミガキ	密	良	外-にぶい黄褐、内-明赤褐、断-オリーブ黒	口縁・胴部に刺突文
37	A1	貯蔵穴2	弥生	甕	—	(5.0)	(8.0)	ハケメ→ナデ	ナデ	密	良	外-灰白、内-にぶい黄褐、断-褐灰	
38	A1	貯蔵穴2	縄文	深鉢	(17.6)	(10.6)	—	ケズリ(板状工具)	ケズリ→ナデ	密	良	外・内-黄褐、断-黄灰	刻目突帯(O字)
39	A1	貯蔵穴3	弥生	高坏	—	(8.2)	—	ミガキ	シボリメ	緻密	良	外-灰黄、内-にぶい黄橙、断-灰黄	
40	A1	貯蔵穴3	弥生	甕	—	(7.4)	(7.6)	ミガキ、ナデ	ナデ	緻密	良	外-にぶい黄橙、内-灰	
41	A1	貯蔵穴3	弥生	甕	—	(3.5)	(6.4)	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断 - 褐灰	
42	A1	貯蔵穴4	弥生	甕	(16.0)	(5.4)	—	ナデ、ハケメ	ミガキ、ハケメ	緻密	良	外 - にぶい褐、内 - にぶい橙	
43	A1	貯蔵穴4	弥生	甕	(17.0)	(1.9)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	緻密	良	外・断-灰黄、内-暗灰黄	
44	A1	貯蔵穴4	弥生	甕	—	(5.6)	(7.0)	器面摩滅し調整不明	ナデ	密	良	外-にぶい褐、内・断-褐灰	
45	A1	土坑1	弥生	甕	(15.2)	(3.6)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	緻密	良	外・内-にぶい黄橙、断-黄灰	斜格子文
46	A1	土坑1	弥生	甕	—	(1.2)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-にぶい黄橙	
47	A1	土坑2	弥生	壺	—	(6.4)	—	ハケメ	ナデ	緻密	良	外-灰黄褐、内・断-灰黄	刺突文
48	A1	土坑3	弥生	甕	—	(6.4)	(6.4)	ミガキ、ナデ	ナデ	緻密	良	外-にぶい黄褐、内-黒褐	
49	A1	土坑4	弥生	深鉢	—	(3.5)	—	ナデ	ナデ、ケズリ	密	良	外 - 橙、内・断 - にぶい黄橙	貼付突帯
50	A1	土坑5	弥生	甕	(17.0)	(5.4)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	緻密	良	外-灰褐、内・断-灰黄褐	
51	A1	土坑5	弥生	甕	—	(5.3)	—	器面剥離し調整不明	ハケメ→ナデ	密	良	外・断 - 橙、内 - にぶい褐	
52	A1	土坑5	弥生	壺	—	(6.0)	(9.0)	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	密	良	外-浅黄橙、内-にぶい黄橙、断-褐灰	
53	A1	土坑5	弥生	甕	—	(2.9)	(5.2)	ハケメ→ミガキ、ナデ	ナデ	密	良	外・断-にぶい褐、断-黄灰	
54	A1	土坑5	弥生	甕	—	(5.1)	(6.4)	ミガキ、ナデ	ナデ	緻密	良	外・断 - にぶい黄橙、内 - 黒	
55	A1	土坑6	弥生	甕	(16.4)	(15.9)	—	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ハケメ→ミガキ	粗	良	外・内・断-褐灰	
56	A1	土坑7	弥生	壺	(23.0)	(2.7)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外-にぶい黄褐、内-にぶい黄橙	櫛描羽状文
57	A1	土坑7	弥生	壺	(31.4)	(2.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内 - にぶい黄橙	斜格子文
58	A1	土坑7	弥生	壺	—	(6.1)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	密	良	外-灰黄褐、内・断-にぶい黄橙	貼付突帯
59	A1	土坑7	弥生	壺	—	(10.7)	—	ハケメ	ナデ、ハケメ	粗	良	外・内・断 - にぶい黄橙	刺突文
60	A1	土坑7	弥生	壺	—	(3.8)	—	ナデ	器面剥離し調整不明	粗	良	外-にぶい黄橙、内-黄灰、断-褐灰	
61	A1	土坑7	弥生	壺	—	(2.2)	—	ハケメ	ナデ	密	良	外・断 - 灰黄、内 - 橙	櫛描波状文
62	A1	土坑7	弥生	甕	(16.4)	(6.7)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ→ミガキ	粗	良	外・断-黒褐、内-褐灰	
63	A1	土坑7	弥生	甕	—	(6.0)	—	ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ、ハケメ→ナデ	粗	良	外・内・断-灰白	
64	A1	土坑7	弥生	甕	—	(2.8)	—	ハケメ	ナデ	密	良	外・内-灰黄褐	
65	A1	土坑7	弥生	壺	—	(5.0)	5.7	ナデ	ナデ	粗	良	外 - にぶい黄橙、内・断 - 褐灰	
66	A1	土坑7	弥生	甕	—	(3.0)	(5.0)	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい褐、内・断-褐灰	
67	A1	土坑7	弥生	甕	—	(6.0)	(6.0)	ミガキ、ナデ	ナデ	緻密	良	外 - にぶい褐、内・断 - にぶい黄橙	

土器②

掲載番号	地区	遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調	備考
68	A 1	火葬墓 1	土師	小皿	(7.7)	(1.9)	(5.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	緻密	良	外・内・断-浅黄橙	糸切り
69	A 1	火葬墓 1	土師	坏	—	(2.7)	(8.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	密	良	外・断-灰白、内-にぶい黄橙	ヘラ切り
70	A 1	火葬墓 1	瓦質	鍋	—	(3.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-暗灰、内・断-灰白	
71	A 1	火葬墓 1	須恵	甕	(44.8)	(16.4)	—	ナデ、格子叩き	ナデ、当具痕(木製か)	密	良	外・内-灰、断-灰白	
72	A 1	柱穴 1	瓦質	鍋	(32.4)	(6.5)	—	ナデ、ケズリ→ナデ	ナデ	密	良	外 - 暗灰、内・断 - 灰白	
73	A 1	包含層	縄文	鉢	—	(5.3)	—	縦回転の斜行縄文(RL)	ナデ	粗	良	外・内・断 - にぶい褐	
74	A 1	包含層	縄文	深鉢	(19.6)	(9.5)	—	粗いケズリ(板状工具)	ナデ、ケズリ→ミガキ	粗	良	外-褐灰、内-にぶい黄橙、断-浅黄橙	刻目突帯(D字)
75	A 1	包含層	縄文	深鉢	—	(2.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、内・断-橙	刻目突帯(D字)
76	A 1	包含層	弥生	甕	—	(2.2)	—	ナデ、ケズリ	ナデ	粗	良	外・内・断-灰黄褐	口縁刻目
77	A 1	包含層	弥生	甕	(15.2)	(4.8)	—	ナデ、ハケメ	ハケメ→ナデ	密	良	外・断-にぶい黄橙、内-褐灰	
78	A 1	包含層	弥生	甕	(7.0)	(1.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰黄褐	
79	A 1	包含層	弥生	甕	(19.6)	(1.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい橙、内・断-明黄褐	
80	A 1	包含層	弥生	壺	—	(6.7)	(7.3)	ミガキ	ナデ	粗	良	外・断-にぶい黄褐、内-褐灰	
81	A 1	包含層	須恵	坏身	(10.8)	(3.3)	—	ナデ	ナデ	緻密	良	外・内・断-灰	
82	A 1	包含層	須恵	高坏	—	(2.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰	4方向の透し
83	A 1	包含層	土師	皿	—	(1.7)	(6.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	密	良	外・内 - にぶい黄橙	ヘラ切り
84	A 1	包含層	瓦質	甕	(16.0)	(25.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-灰、断-淡黄	
85	A 1	包含層	瓦質	鍋	—	(3.5)	—	ナデ、ケズリ→ナデ	ナデ	密	良	外・断 - 灰、内 - 灰黄褐	
86	A 1	包含層	瓦質	鍋	—	(2.7)	—	ナデ、ケズリ→ナデ	ナデ	密	良	外・内 - 灰色、内 - 青白色	
87	A 1	包含層	土師	鍋	—	(2.9)	—	ナデ	ナデ	緻密	良	外・内 - 灰、断 - 灰白	
88	A 1	包含層	瓦質	鍋	(15.2)	(8.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-暗灰、内-暗灰、断-灰白	
89	A 1	包含層	瓦	平瓦	—	—	—	ケズリ	ケズリ	密	良	外・内・断-灰	布目痕、桶巻造
90	A 2	建物 1	常滑	甕	—	(3.0)	—	ナデ	ナデ	緻密	良	断 - 明黄灰、釉-赤褐	
91	A 2	柱穴 2	青磁	碗	(14.2)	(3.9)	—	—	—	密	良	断-灰白、釉-明オリーブ灰	14C
92	A 2	柱穴 3	土師	灯明皿	(7.2)	(1.5)	(4.2)	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-明黄褐	
93	A 2	柱穴 4	瓦質	羽釜	(22.3)	(4.2)	—	ナデ	ナデ、ケズリ→ナデ	密	良	外・内 - 暗灰、断 - 灰白	
94	A 2	包含層	土師	甕	—	(3.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-灰白、内・断-浅黄橙	
95	A 2	包含層	須恵	甕	—	(4.1)	—	叩き→カキメ	当具痕	緻密	良	外・内・断-浅黄灰	
96	A 2	包含層	土師	小皿	(8.4)	(1.4)	(5.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	静止糸切り
97	A 2	包含層	土師	小皿	—	(1.2)	(5.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	緻密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	回転糸切り
98	A 2	包含層	備前	擂鉢	—	(5.0)	—	ナデ	ナデ	緻密	良	内・断-灰赤、釉-赤褐	櫛描放射状線
99	A 2	包含層	土師	鉢	—	(4.2)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-灰、内・断-淡黄	煤付着
100	A 2	包含層	瓦質	鍋	—	(5.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-暗灰、断-淡黄	
101	A 2	包含層	土師	盤	—	(4.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-浅黄橙	
102	A 2	包含層	土師	皿	—	(1.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-淡黄橙	ヘラ切り
103	A 2	包含層	青磁	碗	—	(2.6)	(5.6)	—	—	緻密	良	断-灰白、釉-緑灰	14C
104	A 2	包含層	染付	碗	—	(1.8)	—	—	—	密	良	外・内・断-黄灰	陶胎染付
105	A 2	包含層	染付	碗	—	(5.0)	—	—	—	緻密	良	外・内-灰白、断-白	
106	B 1	火葬墓 2	土師	擂鉢	—	(4.1)	—	ナデ	ナデ	緻密	良	にぶい褐	櫛描放射状線
107	B 1	溝19	土師	小皿	—	(0.9)	(5.2)	ナデ	ナデ	緻密	良	外・内・断 - 灰褐	回転糸切り
108	B 1	溝19	土師	坏	—	(1.7)	(7.0)	ヨコナデ	ナデ	密	良	外・内・断-橙	回転糸切り
109	B 1	溝19	瓦質	鍋	—	(1.8)	—	ナデ	ハケメ	密	良	外 - 暗赤灰、内 - にぶい褐、断 - 灰黄褐色	
110	B 1	溝19	土師	鍋	—	(2.3)	—	ナデ	ハケメ	緻密	良	外・内・断-橙	
111	B 1	溝19	瓦質	鍋	—	(4.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断 - 暗灰	
112	B 1	溝19	瓦質	鍋	—	(3.1)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	密	良	外 - 暗灰、内 - 灰、断 - 灰白	
113	B 1	溝19	須恵	甕	—	(4.4)	—	ナデ、格子叩き	ナデ、当具痕(木製か)	密	良	外・内・断 - 青灰	
114	B 1	溝27	瓦質	鍋	—	(4.2)	—	ナデ、ケズリ	ナデ	密	良	外・内-灰、断-灰白	
115	B 1	溝27	瓦質	鍋	(22.4)	(7.9)	—	ナデ、ケズリ→ナデ	ナデ	密	良	外・断 - にぶい黄橙、内 - 灰	
116	B 1	溝27	瓦質	鍋	(22.0)	(7.5)	—	強いナデ	ナデ	密	良	外 - 灰、内 - 灰、断 - 灰白	
117	B 1	溝27	瓦質	鍋	—	(6.7)	—	ケズリ→ナデ	ナデ	粗	良	外・内 - 灰、断 - 灰白	
118	B 1	溝27	瓦質	鍋	—	(5.4)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外-灰、内-暗青灰、断-灰黄	
119	B 1	溝27	土師	鍋	(29.0)	(9.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-橙	
120	B 1	溝27	瓦質	鍋	—	(3.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-暗灰、断-にぶい黄褐	
121	B 1	溝27	瓦質	鍋	—	(5.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰白	
122	B 1	溝27	土師	鍋	—	(3.4)	(13.4)	ナデ	ナデ	密	良	外・断-灰黄、内-青灰	
123	B 1	溝27	土師	鍋	—	(2.8)	(14.4)	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、内-黒褐、断-橙	
124	B 1	溝27	土師	鍋	—	(1.0)	(14.2)	ケズリ(条痕有)、ナデ	ナデ	密	良	外・断-橙、内-灰	
125	B 1	溝27	土師	鍋	—	(1.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-橙	
126	B 1	包含層	土師	小皿	(7.9)	1.7	(7.2)	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄褐	手捏
127	B 1	包含層	陶器	灯明皿	(8.0)	1.6	(3.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	密	良	断-明赤褐、釉-赤黒	回転糸切り
128	B 1	包含層	土師	皿	—	(1.0)	6.0	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	底部穿孔
129	B 1	包含層	磁器	天目茶碗	—	(5.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-褐灰	
130	B 1	包含層	須恵	壺	—	(7.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-灰、内-オリーブ灰	
131	B 1	包含層	瓦質	羽釜	—	(2.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内 - 暗灰色、断 - 灰白	
132	B 1	包含層	土師	羽釜		(3.5)		ナデ	ナデ	粗	良	外・内・断-灰黄	
133	B 1	包含層	土師	鍋	—	(4.4)	—	強いナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい褐	
134	B 1	包含層	土師	鍋	—	(5.0)	—	強いナデ	ナデ	緻密	良	外-橙、内・断-浅黄橙	
135	B 1	包含層	瓦質	鍋	—	(6.9)	—	強いナデ	ナデ	密	良	外 - 灰色、内・断 - 灰黄褐色	
136	B 1	包含層	土師	鍋	—	(7.0)	—	ケズリ後ナデ	ナデ	粗	良	外-浅黄、内・断-にぶい黄橙	
137	C 1	土坑26	土師	甕	(14.0)	(21.0)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、→ケズリ	粗	良	外・内・断 - 浅黄色	
138	C 1	土坑26	土師	甕	—	(4,0)	—	ナデ、ハケメ	指押え→ケズリ	緻密	良	外-橙、内-灰黄褐、断-灰	刺突文
139	C 1	落し穴28	縄文	深鉢	—	(2.8)	—	条痕	ナデ	密	良	外・内・断-灰黄褐、内-黒	
140	C 1	落し穴31	縄文	鉢	—	(4.5)	—	貝殻条痕→ナデ	ナデ→ミガキ	密	良	外・断-にぶい黄橙、内-黄灰色	
141	C 1	落し穴34	縄文	深鉢	—	(3.5)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	粗	良	外・内-灰白、断-灰褐	刻目突帯(V字)
142	C 1	溝30	土師	甕	15.6	(25.9)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	粗	良	外・内・断-明黄褐	ふきこぼれ有
143	C 1	溝30	土師	甕	(17.0)	(9.2)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	密	良	外・内 - 橙色、断 - 浅器橙	
144	C 1	溝30	土師	甕	(16.5)	(3.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、内-浅黄橙、断-灰	

土器③

掲載番号	地区	遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調	備考
145	C 1	溝30	土師	甕	—	(3.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄褐、断-黒	
146	C 1	溝30	土師	高坏	—	(6.5)	—	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	密	良	外・内-橙、断-黒	
147	C 1	溝30	土師	高坏	14.6	(9.0)	—	ハケメ→ナデ、ハケメ→ミガキ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-橙	
148	C 1	溝30	土師	高坏	(11.0)	(3.7)	—	ナデ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
149	C 1	溝30	土師	高坏	—	(3.5)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	粗	良	外・内-橙、断-にぶい黄橙	
150	C 1	溝30	土師	高坏	—	(1.6)	(10.0)	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	外 - 橙、内・断 - 明黄褐色	赤彩
151	C 1	溝30	土師	高坏	—	(5.9)	—	ハケメ、ハケメ→ミガキ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
152	C 1	溝30	土師	碗	(11.8)	4.9	—	ナデ、手持ちケズリ	ナデ→ミガキ	密	良	外-橙、内-にぶい橙、断-灰	
153	C 1	溝31	土師	碗	—	(2.0)	—	ナデ	ナデ→ミガキ	緻密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
154	C 1	包含層	縄文	深鉢？		(3.3)		ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	隆帯文
155	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(2.8)	—	ナデ	器面摩滅し調整不明	密	良	外-にぶい橙、内・断-褐灰	隆帯文
156	C 1	包含層	縄文	鉢？	—	(3.4)	—	横回転の斜行縄文(RL)	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
157	C 1	包含層	縄文	浅鉢	—	(3.3)	—	ナデ	器面摩滅し調整不明	粗	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰	
158	C 1	包含層	縄文	浅鉢	(20.8)	(10.4)	(2.6)	ナデ	ナデ	粗	良	外 - 橙色、内 - にぶい黄橙	
159	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(6.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-褐灰	
160	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(4.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰白	刻目突帯(V字)
161	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(3.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-にぶい黄橙、内-褐灰	刻目突帯(V字)
162	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(3.0)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	外・内-浅黄、断-灰	刻目突帯(V字)
163	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(3.6)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	外-浅黄橙、内-淡黄、断-灰	刻目突帯(V字)
164	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(4.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、内-浅黄橙、断-灰	刻目突帯(V字)
165	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(2.9)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	外-橙、内・断-にぶい黄橙	刻目突帯(V字)
166	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(4.1)	—	ナデ(工具使用)	器面摩滅し調整不明	密	良	外・内-橙、断-灰	刻目突帯(V字)
167	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(4.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内 - 浅黄橙、断 - 灰	刻目突帯(V字)
168	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(3.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰	刻目突帯(V字)
169	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(4.0)	—	ナデ	器面摩滅し調整不明	緻密	良	外-灰黄、内-浅黄、断-灰	刻目突帯(D字)
170	C 1	包含層	縄文	深鉢	—	(3.5)	—	ナデ	器面摩滅し調整不明	密	良	外・内-灰黄、断-灰	刻目突帯(D字)
171	C 1	包含層	弥生	深鉢	(35.0)	(10.5)	—	ケズリ→ナデ(工具使用)	器面摩滅し調整不明	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰	貼付突帯
172	C 1	包含層	弥生	深鉢	—	(7.1)	—	ナデ(工具使用)	器面摩滅し調整不明	密	良	外-暗灰黄、内-灰黄、断-灰	貼付突帯
173	C 1	包含層	弥生	深鉢	—	(3.5)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	外-灰黄、内・断-浅黄	貼付突帯
174	C 1	包含層	弥生	深鉢	—	(4.0)	—	ナデ	器面摩滅し調整不明	密	良	外・断 - 灰黄、内 - 灰褐	
175	C 1	包含層	弥生	深鉢	—	(3.0)	—	器面摩滅し調整不明	ナデ	密	良	外・断 - 灰褐、内 - にぶい黄橙	
176	C 1	包含層	弥生	壺	—	(3.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-浅黄橙、断-褐灰	沈線
177	C 1	包含層	弥生	壺	—	(5.5)	—	ミガキ	ナデ	緻密	良	外-橙、内-にぶい黄橙、断-灰白	
178	C 1	包含層	弥生	甕	—	(6.0)	—	ナデ、ハケメ	ハケメ→ナデ	密	良	外-灰黄褐、内・断-にぶい黄橙	沈線２条
179	C 1	包含層	弥生	甕	—	(4.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断 - 褐灰	
180	C 1	包含層	弥生	甕	—	(2.5)	—	器面摩滅し調整不明	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰	
181	C 1	包含層	弥生	甕	—	(3.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
182	C 1	包含層	弥生	甕	—	(1.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-明黄褐	
183	C 1	包含層	弥生	壺	—	(2.7)	(11.0)	ナデ	ナデ	粗	良	外・内・断-にぶい黄橙	
184	C 1	包含層	弥生	甕	—	(2.7)	(8.0)	ナデ	ナデ	粗	良	外-橙、内・断-黒褐	
185	C 1	包含層	弥生	壺	—	(3.4)	10.0	ナデ	ナデ	粗	良	外-橙、内-にぶい黄橙、断-灰	
186	C 1	包含層	弥生	壺	—	(3.7)	(9.0)	ハケメ	ナデ	粗	良	外・断-浅黄橙、内-灰白	
187	C 1	包含層	土師	甕	(15.0)	(25.7)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	密	良	外-にぶい黄橙、内・断-灰黄	
188	C 1	包含層	土師	甕	(16.4)	(23.5)	—	ナデ、ハケメ、ナデ	ナデ、ケズリ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰	
189	C 1	包含層	土師	甕	(14.0)	(11.3)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
190	C 1	包含層	土師	甕	(7.5)	(9.9)		器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	粗	良	外・内・断-にぶい黄橙	
191	C 1	包含層	土師	甕	—	(5.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
192	C 1	包含層	土師	甕	—	(4.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
193	C 1	包含層	土師	高坏	—	(7.0)	(9.8)	ハケメ→ミガキ、ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい橙、断-にぶい黄橙	
194	C 1	包含層	土師	高坏	—	(6.4)	10.0	ナデ→ミガキ	ハケメ	密	良	外・内-橙、断-暗灰	
195	C 1	包含層	須恵	坏蓋	—	(1.5)	—	ナデ、回転ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ	緻密	良	外・内・断-灰	
196	C 1	包含層	須恵	瓶	—	(7.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰	
197	C 1	包含層	土師	小皿	(8.0)	2.3	(5.2)	ヨコナデ	ナデ	密	良	外・内・断-橙	回転糸切り
198	C 1	包含層	土師	小皿	(7.0)	1.5	(4.8)	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-橙	手捏
199	C 1	包含層	土師	小皿	(8.4)	1.5	(7.0)	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-橙	回転糸切り
200	C 1	包含層	土師	小皿	(8.0)	1.7	(6.0)	ナデ	ナデ	密	良	外-橙、内-黒褐、断-橙・黒褐	回転糸切り
201	C 1	包含層	須恵	甕	—	(3.6)	—	ナデ、格子叩き	ナデ、ハケメ	密	良	外・断-黒褐、内-黄灰・黒褐	
202	C 1	包含層	須恵	甕	—	(5.0)	—	格子叩き→ハケメ	ハケメ	密	良	外・内・断-黄灰	
203	C 1	包含層	須恵	甕	—	(3.0)	—	格子叩き→ハケメ	ナデ	密	良	外-褐灰、内-暗灰、断-灰褐	
204	C 1	包含層	須恵	甕	—	(5.1)	—	格子叩き	ナデ	密	良	外・断-灰、内-オリーブ灰	
205	C 1	包含層	常滑	甕	—	(5.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄褐、断-黄灰	
206	C 1	包含層	備前	擂鉢	—	(5.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-褐灰、断-にぶい黄褐	櫛描放射状線
207	C 1	包含層	瓦質	羽釜	—	(3.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-灰、断-灰白	
208	C 1	包含層	瓦質	羽釜	—	(5.7)	—	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ→ナデ	密	良	外・内 - 暗灰、断 - 灰白	
209	C 1	包含層	土師	鍋	—	(2.8)	—	ハケメ	ハケメ	密	良	外-橙、内-にぶい黄橙、断-黒褐	
210	C 1	包含層	土師	鍋	—	(2.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-灰黄、内-灰	
211	C 1	包含層	青磁	碗	—	(2.5)	(4.8)	—	—	密	良	外・内-オリーブ灰、断-灰白	
212	C 1	包含層	青磁	碗	—	(1.5)	3.2	—	—	緻密	良	断-灰、釉-緑灰	劃花文
213	C 1	包含層	染付	皿	(14.8)	3.6	(8.8)	—	—	密	良	断-灰白、釉-灰オリーブ	花弁文
214	C 1	包含層	磁器	灯明皿	(6.4)	2.9	(1.6)	ヨコナデ	—	密	良	外・断-にぶい赤褐、釉-暗赤褐	
215	C 2	住居２	土師	甕	(14.8)	(3.2)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
216	C 2	住居２	土師	甕	—	(3.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰	
217	C 2	住居２	土師	高坏	24.0	(8.4)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ハケメ→ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-橙	赤彩
218	C 2	住居２	土師	高坏	—	(3.1)	—	ハケメ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内-橙、断-淡黄	
219	C 2	住居２	土師	高坏	—	(7.0)	8.8	ハケメ→ミガキ、ナデ	シボリメ、ハケメ	密	良	外・内・断-橙	
220	C 2	住居２	土師	甕	(16.5)	(3.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-にぶい黄橙	
221	C 2	住居２	土師	高坏	—	(4.3)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ミガキ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
222	C 2	住居２	土師	甕	(15.0)	(8)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	粗	良	外・内・断 - 橙色	

土器④

掲載番号	地区	遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調	備考
223	C２	住居２	土師	甕	—	(3.8)	—	ナデ	ナデ、ハケメ	密	良	外-黒色、内-橙、断-灰黄	
224	C２	住居２	土師	高坏	(15.4)	(5.2)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
225	C２	住居２	土師	甕	—	(2.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-褐灰、内-にぶい黄橙	
226	C２	住居２	土師	甕	—	(4.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-褐灰、内・断-にぶい黄橙	
227	C２	住居２	土師	甕	—	(3.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-褐灰、内-橙、断-にぶい橙	
228	C２	住居２	土師	甕	—	(3.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
229	C２	住居２	土師	甕	—	(3.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰黄褐	
230	C２	住居２	土師	甕	—	(3.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-浅黄橙　内-橙	
231	C２	住居２	土師	甕	—	(3.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい橙	
232	C２	住居２	土師	甕	—	(2.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
233	C２	住居２	土師	甕	—	(3.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-褐灰	
234	C２	住居２	土師	高坏	—	(3.9)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-暗赤褐	
235	C２	住居２	土師	高坏	—	(4.0)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ハケメ→ナデ	密	良	外・内・断-橙	
236	C２	住居２	土師	高坏	—	(2.5)	—	ナデ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-橙	
237	C２	住居２	土師	高坏	—	(2.1)	(13.4)	ナデ→ミガキ	ナデ、ハケメ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
238	C２	住居２	土師	高坏	(15.0)	(2.8)	—	ナデ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内-にぶい赤褐、断-橙	
239	C２	住居２	土師	壺	—	(5.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-黄灰	
240	C２	住居２	土師	甕	—	(3.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-黒、内・断-にぶい褐	
241	C２	住居２	土師	甕	—	(2.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい褐、断-灰	
242	C２	住居２	土師	高坏	—	(3.3)	—	ハケメ→ナデ	ミガキ	密	良	外-橙、内・断-橙	
243	C２	住居２	土師	高坏	—	(3.0)	—	ハケメ→ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内・断-橙	
244	C２	住居２	土師	脚部	—	(4.0)	(10.0)	ハケメ→ミガキ	ハケメ、ナデ	密	良	外-にぶい黄橙、断・内-橙	
245	C２	住居２	土師	甕	(16.0)	(3.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-黒灰	
246	C２	住居２	土師	甕	—	(2.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
247	C２	住居２	土師	甕	—	(3.1)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
248	C２	住居２	土師	甕	—	(3.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-にぶい黄橙、内-橙	
249	C２	住居２	土師	甕	—	(3.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
250	C２	住居２	土師	甕	—	(2.0)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい橙、断-にぶい黄橙	
251	C２	住居２	土師	高坏	(15.6)	(3.6)	—	ナデ	ナデ→ミガキ	粗	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
252	C２	住居２	土師	高坏	—	(3.5)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	密	良	外・内・断-橙	
253	C２	住居２	土師	高坏	—	(3.3)	—	ハケメ→ナデ	ナデ→ミガキ	密	良	外-にぶい黄橙、内・断-橙	赤彩
254	C２	住居２	土師	高坏	—	(2.8)	—	ハケメ→ミガキ	ミガキ	密	良	外・断-橙、内-灰褐	
255	C２	住居２	土師	高坏	—	(2.3)	(10.0)	ナデ→ミガキ	ハケメ→ナデ	密	良	外・内・断-橙	
256	C２	住居２	土師	高坏	—	(1.9)	(13.0)	ナデ→ミガキ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-にぶい黄橙	
257	C２	住居２	土師	高坏	—	(1.4)	(10.0)	ナデ	ナデ	密	良	外・断 - にぶい橙、内 - 橙	
258	C２	住居２	土師	高坏	—	(3.0)	—	ナデ、ハケメ	ナデ→ミガキ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
259	C２	住居２	土師	小型丸底壺	—	6.7	—	ナデ、ハケメ	ハケメ→ナデ、ケズリ	密	良	外 - にぶい赤褐、内 - にぶい橙、断 - 褐灰	
260	C２	土器溜り	土師	甕	(16.0)	25.5	—	ナデ、ハケメ→ナデ	ナデ、ケズリ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
261	C２	土器溜り	土師	甕	—	(2.6)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
262	C２	土器溜り	土師	甕	—	(3.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
263	C２	土器溜り	土師	甕		(2.0)		ナデ	ナデ	密	良	外・内-にぶい橙、断-にぶい黄橙	
264	C２	土器溜り	土師	甕	—	(11.1)	—	ナデ、ハケメ	ケズリ	密	良	外・内・断-にぶい黄橙	
265	C２	土坑33	弥生	甕	—	(5.0)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	密	良	外-灰褐、内-にぶい黄褐、断-にぶい黄橙	沈線２条
266	C２	土坑35	縄文	壺	(7.6)	(2.2)	—	ミガキ	ミガキ	密	良	外-にぶい黄褐、内・断-褐灰	
267	C２	土坑35	縄文	壺	(13.0)	(5.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
268	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(2.6)	—	ナデ	ケズリ→ナデ	密	良	外・内・断-にぶい橙	刻目突帯(V字)
269	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(4.7)	—	ナデ	ナデ、ミガキ	粗	良	外-褐灰、内-橙、断-灰	刻目突帯(V字)
270	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(5.4)	—	ケズリ	ケズリ→ナデ	密	良	外・内・断-にぶい橙	刻目突帯(V字)
271	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(1.5)	—	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	密	良	外-黒、内・断-にぶい褐	刻目突帯(V字)
272	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(7.9)	—	ケズリ(板状工具)	ナデ、ケズリ→ナデ	密	良	外-黒、内・断-にぶい橙	刻目突帯(V字)
273	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(7.0)	—	ナデ、ケズリ	ナデ	粗	良	外・内-にぶい黄橙、断-灰白	刻目突帯(V字)
274	C２	土坑35	縄文	深鉢	—	(3.8)	—	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	密	良	外-黒褐、内-にぶい赤褐、断-褐灰	
275	C２	土坑35	縄文	鉢	—	(2.0)	(6.6)	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい黄褐、内-橙、断-褐灰	
276	C２	土坑墓３	弥生	鉢	—	(3.0)	—	ナデ	ケズリ→ナデ	密	良	外・内-にぶい黄褐、断面-灰	刻目突帯(D字)
277	C２	土坑墓３	弥生	甕	—	(2.6)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外-黄褐、内・断-にぶい黄褐	口縁刻目
278	C２	溝32	土師	甕	(15.2)	(19.8)	—	ナデ、ハケメ、ハケメ→ナデ	ナデ、ケズリ	粗	良	外・内・断-浅黄橙	
279	C２	溝32	土師	甕	(15.0)	(9.5)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	密	良	外・内・断 - 浅黄橙	
280	C２	溝32	土師	高坏	(15.0)	(9.0)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	内 - 赤褐色、断 - 明黄褐	赤彩
281	C２	溝32	土師	高坏	—	(8.5)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	外・内・断-浅黄橙	
282	C２	溝32	土師	高坏	—	(8.8)	(9.6)	ハケメ、ミガキ	シボリメ、ハケメ	緻密	良	外・内・断-橙	
283	C２	溝32	土師	高坏	—	(6.4)	12.1	ハケメ→ナデ、ミガキ	シボリメ、ハケメ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
284	C２	柱穴７	土師	甕	(15.0)	(10.2)	—	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	密	良	外・内 - 浅黄色、断 - 灰	
285	C２	柱穴８	弥生	深鉢	(29.6)	(6.9)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外 - 橙、内 - 明黄褐色、断 - 褐灰	
286	C２	包含層	縄文	深鉢	—	(6.6)	—	ナデ(工具使用)	ナデ	密	良	外-灰黄褐、内-にぶい黄橙、断-灰	
287	C２	包含層	縄文	深鉢	—	(5.8)	—	貝殻条痕	ナデ、ケズリ(条痕)	密	良	外・内-にぶい黄橙、断-暗灰	
288	C２	包含層	縄文	深鉢	—	(5.7)	—	ナデ(工具使用)	ナデ(工具使用)	密	良	外・内-黒、断-にぶい黄橙	刻目突帯(V字)
289	C２	包含層	縄文	深鉢	—	(5.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい褐、内-明赤褐、断-にぶい黄橙	刻目突帯(V字)粘土瘤有
290	C２	包含層	縄文	深鉢	—	(3.0)	—	ケズリ	ナデ、ミガキ	粗	良	外・内・断-にぶい黄橙	刻目突帯(D字)
291	C２	包含層	弥生	深鉢	—	(4.8)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・断-にぶい黄橙、内-明赤褐	貼付突帯
292	C２	包含層	弥生	深鉢	—	(2.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-淡黄、断-オリーブ灰	貼付突帯
293	C２	包含層	弥生	深鉢	—	(3.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内-淡黄、断-灰	貼付突帯
294	C２	包含層	弥生	壺	—	(5.7)	—	ハケメ	ハケメ	密	良	外・内-黄橙、断-にぶい黄橙	凹線文
295	C２	包含層	弥生	甕	—	(2.7)	—	ハケメ	ナデ	密	良	外・断-にぶい黄橙、内-浅黄橙	沈線文
296	C２	包含層	弥生	甕	—	(1.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-黒褐、内・断-黄灰	口縁刻目
297	C２	包含層	弥生	甕	—	(2.4)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	口縁刻目

土器⑤

掲載番号	地区	遺構名	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調	備考
298	C2	包含層	弥生	甕	—	(2.6)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外・断-にぶい黄橙、内-灰褐	口縁刻目
299	C2	包含層	弥生	甕	—	(2.8)	—	ナデ	ハケメ→ナデ	密	良	外・内・断-橙	口縁刻目
300	C2	包含層	弥生	壺	—	(3.6)	(8.0)	ハケメ	ナデ	粗	良	外・内・断-にぶい黄橙	
301	C2	包含層	土師	甕	—	(3.2)	—	器面摩滅し調整不明	器面摩滅し調整不明	密	良	内・断-淡黄、外-浅黄橙	
302	C2	包含層	土師	高坏	(7.9)	(4.6)	—	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	
303	C2	包含層	土師	高坏	(6.4)	(4.5)	—	ナデ	ミガキ	密	良	外・内・断-橙	赤彩
304	C2	包含層	土師	小皿	—	(1.7)	(5.0)	ナデ	ナデ	密	良	外・内-橙、断-浅黄橙	回転糸切り
305	C2	包含層	土師	小皿	—	(2.0)	(7.0)	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙静止糸切り	
306	C2	包含層	常滑	甕	—	(8.3)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-にぶい褐、内-にぶい黄橙、断-灰白	
307	C2	包含層	瓷器	甕	—	(4.5)	—	ナデ	ナデ	密	良	外-黄灰、内-灰、断-灰黄	
308	C2	包含層	須恵	甕	—	(4.5)	—	格子タタキ→ハケメ	ハケメ	密	良	外・内-灰、断-褐灰	
309	C2	包含層	瓦質	鉢	—	(4.3)	—	ナデ	ナデ	粗	良	外・内 - 黒、断-灰白	
310	C2	包含層	土師	羽釜	—	(3.5)	—	ナデ、ハケメ	ナデ	密	良	外・内・断 - 灰黄	
311	C2	包含層	土師	羽釜	—	(3.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-浅黄橙	
312	C2	包含層	瓦質	鍋	—	(2.7)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内 - 暗灰、断 - 灰白	
313	C2	包含層	土師	鍋	—	(5.9)	—	ナデ	ナデ	密	良	外・内・断-灰白	12～13C
314	C2	包含層	白磁	碗	(13.0)	(2.8)	—	—	—	密	良	断-灰白、釉 - 白	
315	C2	包含層	磁器	天目茶碗	(11.3)	5.4	5.0	—	—	密	良	断-灰白、釉 - 紫黒	

土製品

掲載番号	地区	遺構名	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	孔径(mm)	重量(g)	胎土	焼成	色調	掲載番号	地区	遺構名	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	孔径(mm)	重量(g)	胎土	焼成	色調
C1	A1	包含層	土錘	(5.8)	(1.3)	4.0	(9.4)	緻密	良	灰褐	C3	A1	包含層	土錘	(2.5)	(0.9)	3.0	(1.8)	密	良	明赤褐
C2	A1	包含層	土錘	(3.4)	(1.2)	4.0	(4.6)	密	良	灰	C4	C1	包含層	土錘	6.2	2.0	5.0	20	密	良	にぶい黄橙

石器

掲載番号	地区	遺構名	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	掲載番号	地区	遺構名	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材
S1	A1	住居1	石鏃未製品	2.7	1.6	0.7	1.3	ガラス質安山岩	S18	C1	包含層	石鍬	(13.2)	9.8	2.5	(300.0)	板状安山岩
S2	A1	住居1	石鏃未製品	1.7	2.4	4.5	1.5	ガラス質安山岩	S19	C1	包含層	石鍬	20.3	8.5	2.9	600.0	板状安山岩
S3	A1	住居1	石鏃未製品	2.9	3	1.7	2.0	ガラス質安山岩	S20	C1	包含層	敲石	12.8	9.1	5.1	1000.0	安山岩
S4	A1	住居1	石鏃未製品	1.8	2.5	1.5	0.8	ガラス質安山岩	S21	C2	住居2	石鍬	(9.8)	(9.2)	2.4	(240.0)	板状安山岩
S5	A1	住居1	石鏃未製品	1.9	4.5	1.85	1.6	ガラス質安山岩	S22	C2	土器溜り	敲石	10.5	4.4	2.9	180.0	安山岩
S6	A1	住居1	石錐未製品	3.0	1.9	0.5	1.9	ガラス質安山岩	S23	C2	包含層	剥片	2.0	2.0	0.6	1.3	黒耀石
S7	A1	住居1	石錐未製品	3.0	1.2	0.8	2.4	ガラス質安山岩	S24	C2	包含層	剥片	2.9	2.2	0.7	3.1	黒耀石
S8	A1	住居1	石錐未製品	2.2	4.5	1.3	1.2	ガラス質安山岩	S25	C2	包含層	石(貝の穿孔)	—	—	—	—	安山岩
S9	A1	貯蔵穴1	石鍬	(21.5)	14.2	2.6	(750.0)	板状安山岩	S26	C2	包含層	石鍬	10.9	10.9	3.0	850.0	板状安山岩
S10	A1	貯蔵穴3	砥石	6.3	2.3	5.2	175.0	安山岩	S27	C2	包含層	石鍬	(8.5)	7.2	2.6	(170.0)	板状安山岩
S11	A2	包含層	スクレイパー	4.0	6.5	2.1	9.5	黒耀石	S28	C2	土坑墓5	敲石	24.5	7.9	5.7	620.0	安山岩
S12	C1	土坑25	敲石	(11.0)	12.7	8.5	(1300.0)	安山岩	S29	C2	溝32	石鍬	19.5	11.3	2.5	660.0	板状安山岩
S13	C1	溝30	敲石	(8.9)	11.1	5.6	(700.0)	安山岩	S30	C2	柱穴6	台石	(32.2)	(14.6)	(5.8)	(2520.0)	安山岩
S14	C1	包含層	石鏃未製品	3.8	3.5	1.2	12.4	ガラス質石英玢岩	S31	C2	包含層	未製品	5.5	4.1	2.5	37.8	玉髄
S15	C1	包含層	石鏃	2.6	1.7	0.4	1.0	黒曜石	S32	C2	包含層	石鍬	(10.7)	7.3	3.0	(260.0)	板状安山岩
S16	C1	包含層	磨製石斧	8.9	8.9	(1.6)	(850.0)	閃緑玢岩	S33	C2	包含層	石鍬	(14.7)	2.0	9.0	(270.0)	板状安山岩
S17	C1	包含層	石鍬	(10.6)	9.4	2.5	(350.0)	板状安山岩									

木製品

掲載番号	地区	遺構名	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	高台径(cm)	色調	備考
W1	C1	包含層	漆器	椀	—	(4.5)	—	外-黒漆、内-赤漆、家紋-赤	3方向に家紋
W2	C1	包含層	漆器	椀	—	(3.6)	4.4	外・内－黒漆	

金属製品

掲載番号	地区	遺構名	種別	最大長(cm)	内径(cm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	備考
M1	C1	包含層	銭貨	2.3	1.9/1.7	0.7	1.6	銅	寛永通宝

報告書抄録

ふりがな	なかおだいいちいせき
書名	中尾第1遺跡
副書名	一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅵ
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書
シリーズ番号	90
編著者名	玉木秀幸、長尾かおり、福井流星
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団　埋蔵文化財センター
所在地	〒680－0151　鳥取県岩美郡国府町宮下1260番地　TEL（0857）27－6717
発行年月日	西暦2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
なかおだいいちいせき 中尾第1遺跡	とっとりけんとうはくぐん 鳥取県東伯郡 とうはくちょうおおあざなかお 東伯町大字中尾 あざあらきだ 字荒木田753、 あざまいめ 字舞の免793、 あざしもたに 字下ノ谷828、 あざとくさんかき 字徳三垣895、 あざしものきわ 字下野際891	313688	300	35°29′14″ 35°29′19″ 35°29′28″	133°42′14″ 133°42′23″ 133°42′32″	2003.4.22 ～11.25	28,696㎡	一般国道9号（東伯中山道路）の改築

所収遺跡名	種別	おもな時代	おもな遺構	おもな遺物	特記事項
中尾第1遺跡	狩猟場	縄文時代晩期	落し穴	縄文土器	弥生時代前期の礫石使用墓を伴う土坑墓群が確認される。
	集落	弥生時代	竪穴住居・貯蔵穴・土坑・墓	弥生土器・石器・炭化米	
		古墳時代中期	竪穴住居・土坑・溝	土師器	
		中世	掘立柱建物・区画溝・墓	常滑焼・土師器・青磁	

鳥取県教育文化財団調査報告書90

一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

鳥取県東伯郡東伯町

中尾第1遺跡

発行　2004年3月31日
編集　財団法人　鳥取県教育文化財団
　　埋蔵文化財センター
　　〒680-0151　鳥取県岩美郡国府町宮下1260
　　電話（0857）27－6717
発行者　財団法人　鳥取県教育文化財団
印刷　山本印刷株式会社

１．調査区全景（北から）

２．C2区土坑墓群全景（北東から）

１．A1区全景（上空から）

２．竪穴住居１（西から）

３．竪穴住居１壺出土状況（南東から）

４．貯蔵穴１（南から）

５．土坑７（南東から）

６．落し穴10（北西から）

７．落し穴13（北西から）

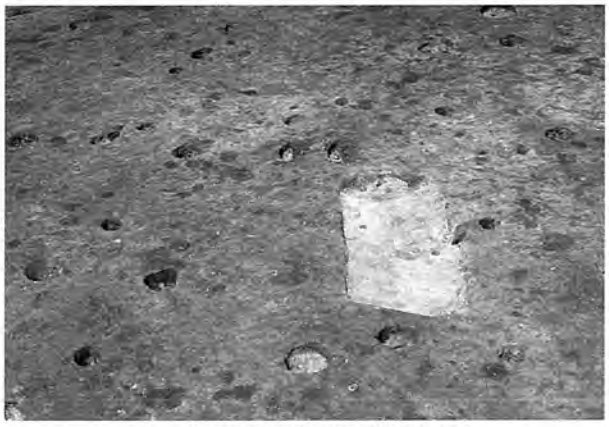
８．火葬墓１（東から）

１．A2区全景（上空から）

２．A2区全景（北東から）

３．区画溝３・掘立柱建物群（北から）

４．掘立柱建物２（北から）



５．掘立柱建物３（南から）

６．区画溝１（北西から）

７．区画溝２（西から）

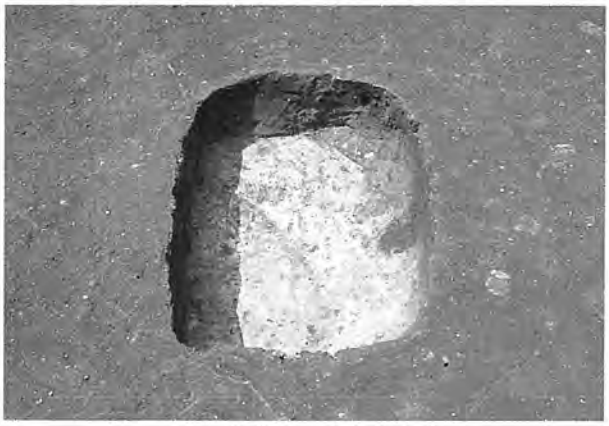
８．土坑10（南から）

１．B1区調査区全景（北東から）

２．B1区遺構集中部（南東から）

３．掘立柱建物４（北から）

４．段状遺構１（北東から）



５．土坑15（東から）

６．土坑20（東から）

７．火葬墓２（南から）

８．溝19（南東から）

1．C1・C2区全景（上空から）

2．C1区北側全景（南西から）

3．C1区南側全景（北東から）

4．落し穴29（北から）

5．落し穴34（北から）

6．落し穴39（北から）

7．溝30遺物出土状況（北西から）

8．溝30・31（西から）

１．C2区全景（南から）

２．竪穴住居２（北から）

３．掘立柱建物６（東から）

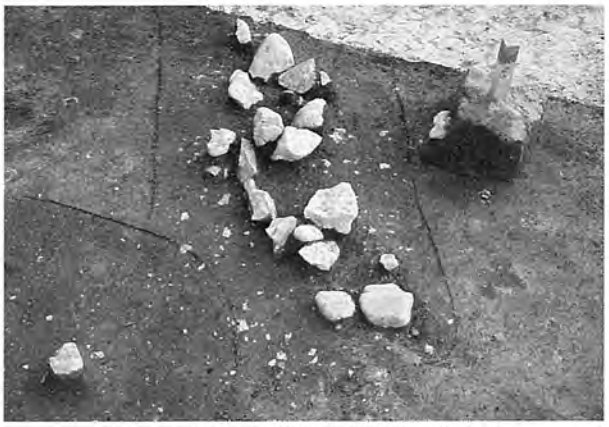
４．土坑35（東から）

５．土坑墓１（西から）

６．土坑墓２（西から）

７．土坑墓３（北から）

８．土坑墓４（西から）



１．土坑墓５検出状況（西から）

２．土坑墓５（東から）

３．土坑墓６（東から）

４．土坑墓７（北西から）

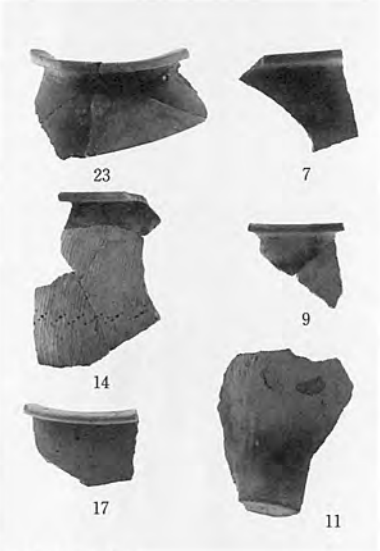
５．土坑墓８（南東から）

６．土坑墓９（南西から）

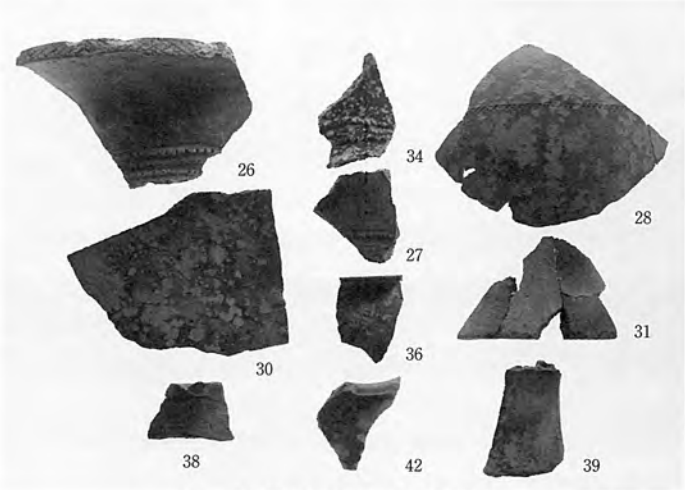
７．土坑墓10（南西から）

８．土坑墓11（東から）

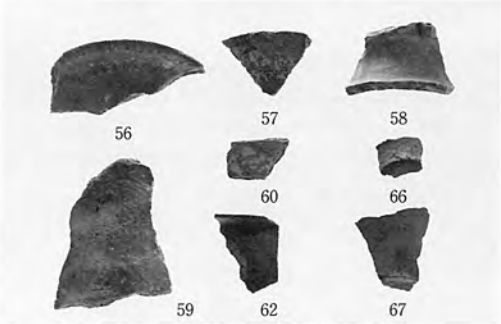
１．竪穴住居１出土遺物



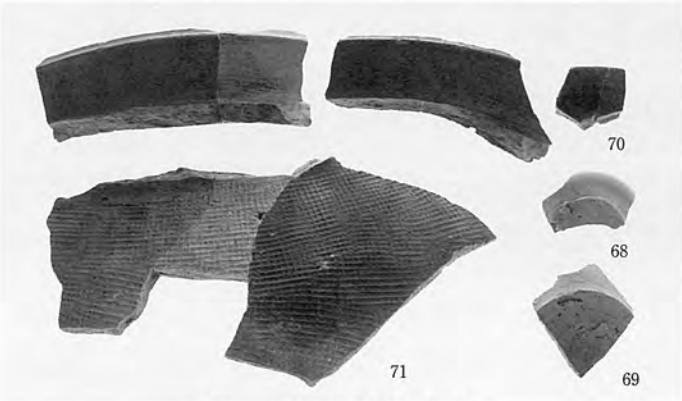
２．貯蔵穴１出土遺物



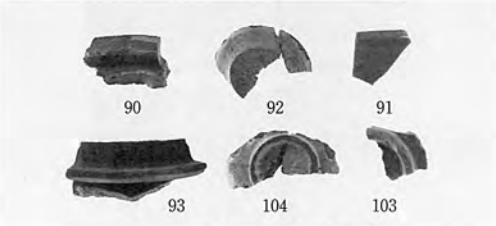
３．貯蔵穴２～４出土遺物



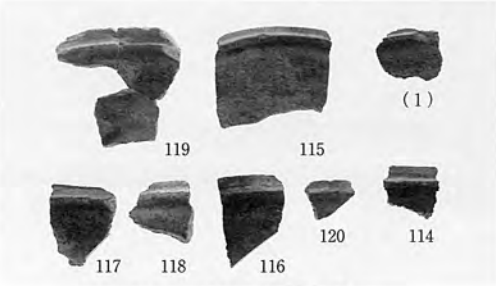
４．土坑７出土遺物



５．火葬墓１出土遺物



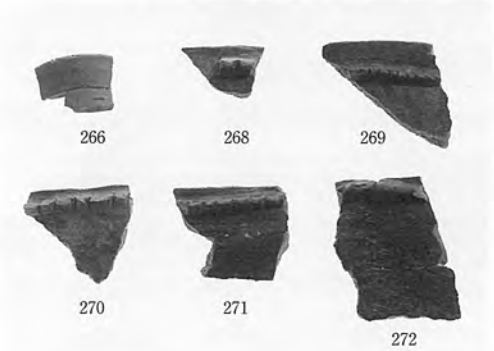
６．Ａ２区出土遺物



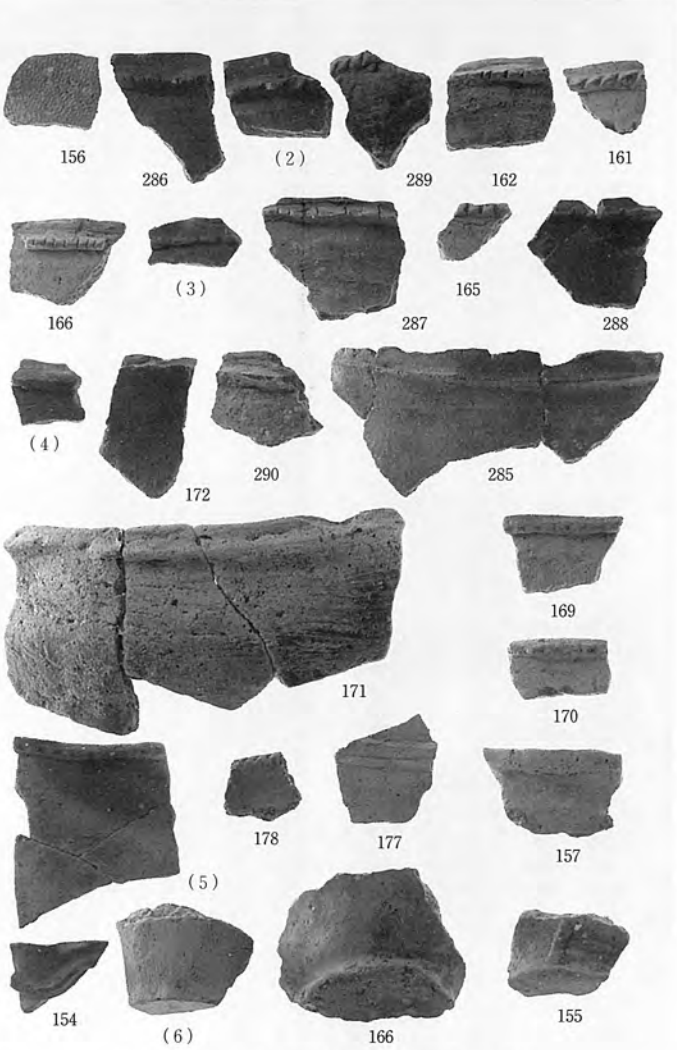
７．溝27出土遺物

１．溝30出土遺物

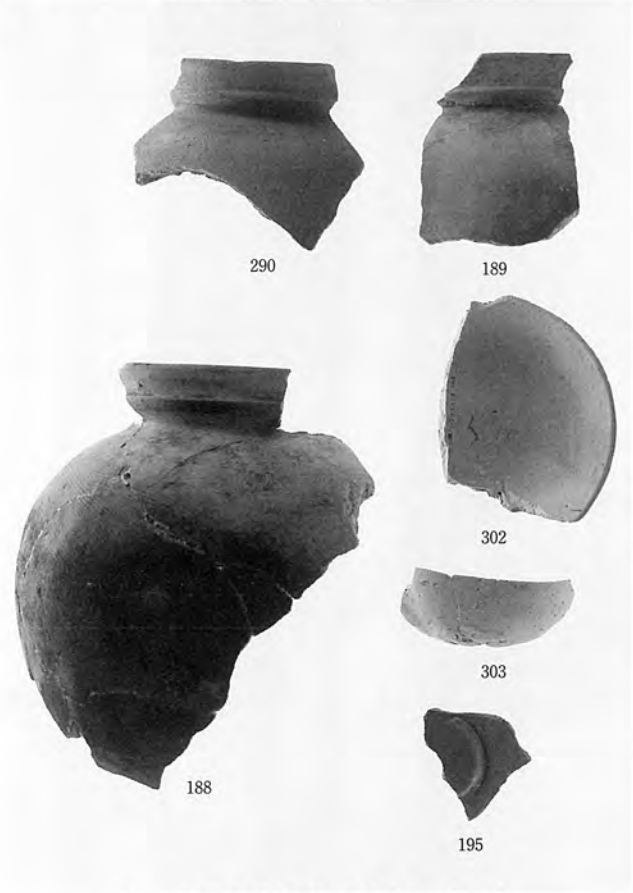
２．竪穴住居２出土遺物



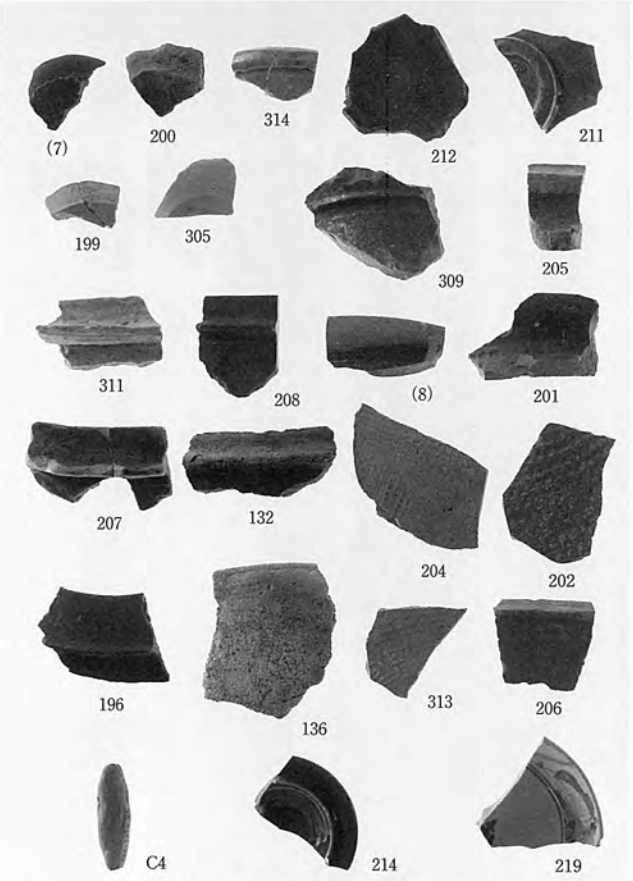
３．土坑35出土遺物　４．土坑墓5出土遺物



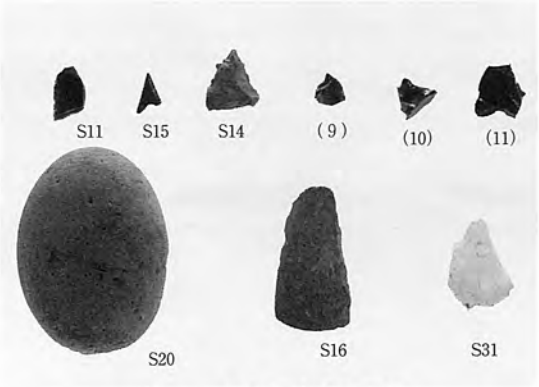
５．Ｃ区出土遺物（縄文～弥生）



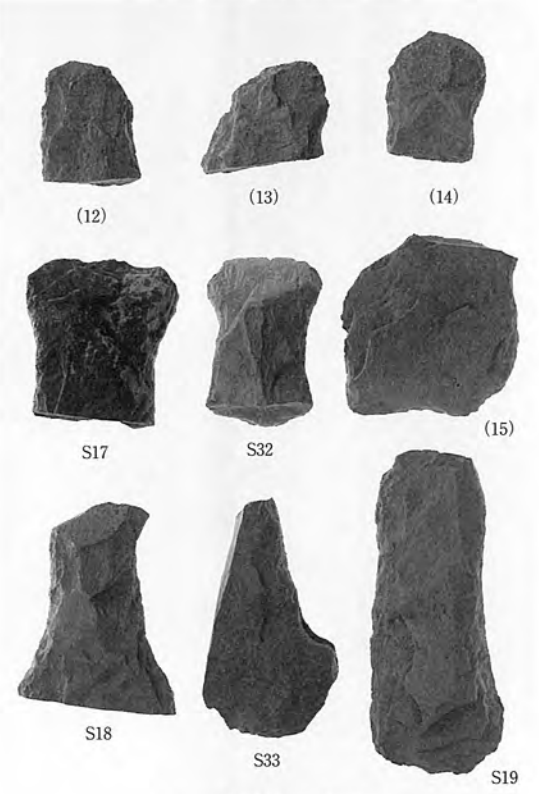
１．Ｃ区出土遺物（古墳～古代）



２．Ｃ区出土遺物（中世～近世）



３．Ａ・Ｃ区出土石器



４．Ｃ区出土石器